

地元懇談会（平成 22 年 12 月開催）で出された主な意見等

< 管理等について >

- ・ほったらかしにしないで、いくらかでも管理や手入れが必要。地元の協力を得るということには、その面もある。
- ・ただほったらかしにせず、枝を切るなど管理しなければ、山そのものが壊れてしまう。自然を相手にするには、共存・共栄が一番である。
- ・表土を削ってしまっているの、植生も一定の種類しか生えなくなっている。実のなる栗やどんぐりなどの手入れをし、山を更生する対策をとってほしい。

< 立ち入りについて >

- ・立ち入り禁止にしないで親しめる場所にしてほしい。
- ・跡地全体を最初から整備するのではなく、一番いい場所を整備し開放すべき。簡単な方法で、いいところだなと人が集まってくるようになれば、先に進むと思う。
- ・ある程度の部分を開放すれば人は歩く。それが歩道になっていくので、費用をかけなくても、春からでも開放していきながら様子を見ていけば少し進むと思う。

< 利活用方法について >

- ・船沢小学校では、地元の文化を体験して勉強していけたらいいと思っている。子どもたちの自然学習の場として体験的なところとすることを望む。
- ・市民の 7 割が岩木山を背景とした景色を大事にしている。そういう市民も意識しながら、気軽に足を運べる、都会の人が憩えるような場所にしてほしい。
- ・地元の人が駐車場でりんごや野菜を売るなどしたら、地元の活力になっていく。

< 懇談会について >

- ・10年、20年あるいは50年かかるかもしれないので、船沢の若い人たちに伝えていかなければならない。だから、懇談会は必要。
- ・公民館なり町内会なり連帯しながら地元の人が懇談会に半数以上入ってもらいたい。

< 連携・協働等 >

- ・自然保護運動は地域の協力なくして出来ない。じっくり地域の皆さんと話をしながらやっていきたい。市民に利用されるような場所にしたい。（岩木山を考える会）
- ・岩木山を考える会に協力していただけるのなら、船沢の人たちも一生懸命それに参加し、協力を受けながら遊歩道をつくるほうにもって行ってほしい。